

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ひまわり
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	群馬県富岡市宇田509
記入者名 (管理者)	斉田 雪見
記入日	平成 19年 6月 18日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的で落ち着いた雰囲気	○ 一人一人に無理に押しつける事なく、意見
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者とのコミュニケーション	○ 一人一人の会話に耳を傾けて個々の話にそって対応
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議を通し区長さん家族の方民生委員などに健康状態や日常生活のケアを随時話している	○ 今現在は会議のみとなっているが今後他の地域と交流を持っていきたい
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	環境整備等であつたりした時に挨拶はしている	○ もっと近所の方々と接する事に参加して日常的な付き合いをしていきたい
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議でイベントに参加を今現在検討中	○ 老人会は通知はくるも本人拒否の為参加はしていない。今後、イベントを検討中であるが実行なれば進んで交流していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	特に今現在はなし	○	他の施設と密接な関係を取り事業者又職員の力に応じ交流を持つよう計画している
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	一部の評価は取り組んでいるもその他に関しては実践が不十分である	○	一つ一つ確実にいきい不十分な点は早期に行っていくよう心がけている
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	話し合いを持っているも会議で検討中	○	検討中であるもより細かく話し合いよりよいサービス向上に努めていく
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今の所電話を通して市町村との連絡を取っている	○	今後直接会う機会を持ちサービスの向上に努めるよう努力していく
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	特になし	○	学ぶ機会を定期的にもち必要性を随時行い支援に努めていく
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	特になし	○	今虐待が多い中今後施設内でも言えない為職員が一丸となり見過ごさないよう、徹底して勉強会等出席し学び防止に努める様努力していく

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解除の際不安、疑問点を納得行くまで十分説明している	○ 今は行っていないが、契約等済み入所が決まりサービスが開始しても定期的に不安等あるか随時連絡をとり行っていきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	随時、利用者の方々に活発的なため、その場その場で訴えある。	○ ミーティングのため、その点を管理者・職員で話し合い運営推進会議でおこなっている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族に入所者の日々の暮らしぶりの様子を写真等で伝え、また入居料支払い時に暮らしぶりを具体的に伝えている。金銭管理においては、施設では預からず入居者は金銭を保持しない方針。またやむおえない場合は代替方針を家族との相談の上行きその詳細を明らかにしている。	○ 今後は金銭管理等できる限り本人に合わせ検討していく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	最近意見箱を置き始めたばかりである。	○ 意見箱などにより管理者を通し、ミーティングを定期的に行い改善点等見直していく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1ヶ月に1回ミーティングを行っている。その中で意見・提案・注意点などを話し合っている。	○ 提案等を行い、その結果等も1ヶ月に1回のミーティングではなく回数を増やし改善していこうと思う。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	日中は常に3名確保。また夜間は1名と対応できる範囲に勤務を執り行っている。また、その他違うときは瀬職員がいつでも来れるように連絡を取り合っている。	○ 今の現状維持に努める。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員がその都度、移動等した職員へ影響がない程度に説明を行っている。	○ 今後の同様に行っていく予定である。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>今年に入り、職員1名がレベルアップ研修に努めたが現在のところそれ以外は特になし。</p>	<p>○</p> <p>今後、研修・トレーニング等を職員1人1人を考慮し取り組むよう予定している。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同施設全体の交流、勉強会等は行っている。また、管理者のみ他の会議・勉強会に参加している。</p>	<p>○</p> <p>サービスの質の向上には必要なため管理者だけでなく職員にも力を入れていこうと思う。また、ネットワーク作りは特にないため、他の同業者と交流をもっていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>保養所を持ち、職員のストレス解消できるようしている。</p>	<p>○</p> <p>もし、今後そうした状況になった場合、運営者は定期的に管理者等の悩みを聞く機会をもおけることを会社の上で決まっているので行っていく。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者が定期的(1日1度程度)施設を訪れ、職員に声掛けや会話などを行っている。</p>	<p>○</p> <p>今後も同様ながらも全体会議など交流をもちつつ、職員の把握に努めていく。</p>
<p>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>			
<p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用者とコミュニケーションをとり、個々に耳を傾け問題を受け止め改善するよう努力している。</p>	<p>○</p> <p>取り組みとしては今まで通りだが1人1人と真剣に向き合い、困ることのない空間を作るよう努力していく。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>今は意見箱を置いたばかりで特にはなく、支払い時に聞いたりする程度である。</p>	<p>○</p> <p>今後、問題や不安があれば家族に連絡をし話し合い解決していきその他のことについても検討するよう努力する。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ほとんどの家族の方と話を持つようにも現状では拒否の方が多いため現状支援としている。	○	もし、そうした状況になった時は見極め、その他のサービスも考慮している。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなりサービスはせず、その他の利用者の方に明るい方が多い為、雰囲気に馴染む様よく会話でコミュニケーションをとり家族や個人に合わせた工夫をしている。	○	今後の課題として、個々の営みも考え、個々kに合った雰囲気作りに力を入れ工夫しながら行っていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者目線に立ち、職員も一緒に喜怒哀楽を共有できるような関係を築いている。	○	今まで以上によりよい関係を築いていけるように職員1人1人努力していく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と連絡をとり、職員も共に喜怒哀楽を本人と共に築いている。	○	よりよい関係作りができるように一層の努力をしていく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の面会を通して、利用者ど家族とのよりよい関係作りができるように努力している。	○	今まで連絡をとるなどして行っていたが、今後は月間行事等にご一緒に参加してもらおうなどして今まで以上の努力をしていく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一部の利用者の方となっているも面会や外出を通し行っている。	○	一部の方のみとなっているため利用者個々で行っていきけるよう努力につとめて行く。*今までも家族との拒否の方々でも随時連絡を執り行っていく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員対応にて全体で会話できるようコミュニケーションをとりつつ1人1人把握し孤立しないよう努めている。	○	全体の利用者がまとまりのあえる関係を築き上げるよう努めていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家族よりの要望があれば対応している程度。	○	家族の要望により再入所等できる限り家族のニーズにこたえられるよう努力していく。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所以前の生活パターンを考慮し、本人の要望にこたえられるよう努力している。	○	日々の流れによって変化しているため常に対応できるよう努力していく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所者や家族との会話を通し、入所以前の生活パターン・環境の把握に努めている。	○	利用者個々の入所以前に近づけるよう本人の寄りよい環境作りに努めていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	管理者・看護師・ケアワーカーなどの意見を聞き、相談しながら行っている。	○	今までも行っているも今以上に管理者・看護師・ケアワーカーの連携をとり個々の現状把握に努めていく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	施設全体で家族に介護プランに目を通してもらい、家族の意見・同意をとりつつ行っている。	○	よりよい介護計画を行い、個々の利用者に適したものを提供できるよう家族との意見を聞き行っていく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族よりの要望があればその都度行い、ない場合でもミーティングや体調の変化に応じ行っている。	○	一部の家族の方からのみとなっているため全員の方との連絡をとり連携をとりつつ些細な体調の変化にも対応できるよう努力していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サマリー等に記録をし、日中から夜間の引継ぎ等を行いながら必要に応じ行っている。	○	小さな変化にも対応できるよう会議などを行っていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現状維持し、家族からの要望がある場合できる限り応じれるよう行っている。	○	他の施設や事業所との連携をとりながら柔軟な支援が行えるよう努めていく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員・ボランティアなどにより個々の利用者に支援を行っている。	○	より広く地域密着を深めて、定期的に行えるようにしていく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望にあったサービスを家族と相談し行っている。	○	家族との連絡内容により、他の事業所とサービス内容を利用できるよう努力していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	会議・電話連絡により協力を行っている。	○	今以上に密着した関係作りに努めていく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診を行っているが家族の要望が出たときはその都度行っている。	○	家族との連絡をとりつつ、今以上に密着した関係作りに努めていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	<p>今までと同様に密着した関係作りを築いていく。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	<p>今万で以上に利用者個々の健康管理が行えるよう、施設内看護師等、協力体制を築いていく。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	<p>今後、医療機関(医師・看護師・ソーシャルワーカー等)と相談をし、その場に適した連携関係を築いていく。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>医療機関と施設との関係だけではなく、家族も含めた相談体制を築いていく。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>利用者の日々の小さな変化においてもかかりつけ医などとの連携を取れるような体制作りをしていく。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	<p>場所が変わっても今までと同じような環境・状態で生活できるよう小さなことでも情報交換等行っていきスムーズに移れるようにしていく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	守秘義務はもとより、1人1人のプライバシーを考え個々の対応につなげていく。	○ 記録等も1人1人の利用者のプライバシーを損ねないよう細心の注意を払いここに対応していく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	状況判断を行い、個々の思い・希望を総合的に考え行っている。	○ 現状維持で利用者の希望に応えられるよう努めていく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースの把握を行いそれにあつた対応をしている。	○ 現状維持ながらも利用者個々の希望に応えられるよう努めていく。
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	自立している方は身だしなみ・おしゃれ等おこなえているも自分でできない方は職員重視になりがち傾向があり、理容等は1ヶ月に1回家族と連絡をとり連れて行っていただいている。	○ 身だしなみで自立できている方は今まで通りですがその他の方は利用者の好みを把握し行い個々の方々に注意を払い家族とまめに連絡をとり散髪させていこうと思う。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方の準備等は1人1人にあつた役割を行っている。	○ 食事はその時の職員本意になりがちではあるも申し出があればそれにあつた食事を出している。また準備この方ではできないと決め付けず1人1人のレベル低下を防ぐためできないこともチャレンジさせていきたいと思う。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ミーティングなどにより利用者1人1人の意見などを考慮し行っていくようにしている。	○ 今後もミーティングなどにより考慮し行っていく方向にしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレ誘導・ポータブル使用によりオムツ使用を少なくし、自然排泄するようにしている。	○	1人1人の排泄パターンを把握し個々の利用者に応じた対応を行っていききたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の意見などにより週2回としているが希望があればその都度個々に対応している。	○	今後は曜日を決めずに利用者の希望に応じ入浴を行っていけるよう努める。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠れない入所者には夜勤帯が話し相手になって。眠剤使用者も4名いて、20時に服用している。	○	薬の使用されてる入所者の方も日中の活動に取り組み生活リズムを作り、薬に頼らない安眠支援に取り組んでもらいたい。また何名かは眠剤使用せずに安眠と取れるようになった方もいる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の訴えがあるときに支援していく	○	今後、利用者の意見を聞き、個々に行っていけるようになればよいと思う。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と連携が少ないため、現在のところ金銭の所持については難しいところがある。	○	今後は家族との連携を取れるようにし、金銭所持のできる方向にもっていけるよう努める。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日とは言わないものの利用者の希望により近所の神社に職員が付き添ってお参りを行っている。	○	今後でもできるかぎり利用者の希望により職員が付き添い近所に出かけていきたいと思う。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の訴えにより家族と連絡をとり、ご家族に伴ってもらい連れて行ってもらう方向にしている。	○	家族との連絡をとり連携体制を築き、今以上に外出支援を行っていけるよう努める。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話をかけたり、手紙についても職員が帰宅時などに投函するようにしている。	○	今は一部の方に偏っているため今後は家族と連絡をとり
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	一部の方に連絡をとり、家族・知人等訪問してもらえるようにしてもらっている。	○	今は一部の方のみになっているため、全体に連絡を取れるようにして家族・知人の輪を広げていきたいと思う。
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	個々のベットは転落などの聞けんリスクが高くやむおえない場合を除いて極力柵をしないようにしている。	○	ベットのほうもギャッチ等、従来のベットが使用するように変更している。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	よりよい家庭環境に近づけるよう日中・夜間共に鍵をかけないよう努力をしている。	○	今と同様であるも今以上家庭環境に近づけられるよう努力していく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	見守り等により1人1人の行動を把握し、安全に心がけるようにしている。	○	今以上に1人1人の生活パターンにより行動把握していきたいと思います。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険なリスクがあるものは保管庫に片付けるようにしている。	○	今後も危険なリスクがあると思われるものは生活状況片付けるよう努力していく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	危険なリスクがあるものは保管庫に片付け、服薬に関しても日付を入れるようにして危険リスク減少に心がける。	○	今以上に注意をはらい、安全を心がけ、事故防止に努めていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	対応手順・連絡網を作るなどして行っている。	○	今は定期的ではないので定期的に行っていききたいと思う。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回避難訓練を行っている。(区長・民生委員・消防署参加による)	○	今後は年1回ではなく定期的に行っていければと思っている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	大きなリスク以外は状況にあわせ支払い時に行っている程度。	○	小さなリスクでも家族との相談により行って行きたいと思う。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、バイタルチェックを行っている。	○	利用者1人1人に目を配り、より一層体調の変化に早期に対応できるようにしていく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日付を書いたり、受診時の薬の変更の時は引継ぎや職員用連絡ノートを使うようにして理解している。	○	同様であるがより一層の理解ができるよう利用者個々の情報(業務上知りうる情報・リスク等)を職員1人1人に提示していく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日行うバイタルチェックなど行う時や便秘気味と感じられる時は水分補給の調節や場合によっては服薬などで対応していく。	○	今後も引き続き同様に行っていく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを実施している。できない人については職員が介助をしている。	○	今後も同様に行い、手洗い・うがい等も加え行っていききたいと思う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタルチェックや日々の様子、本人の希望により食事量・水分量の調節を行っている。	○	今一層、1人1人の利用者の把握により利用者個々の調節を行っていきけるよう努める
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防接種は行っている。その他、感染予防マニュアル等の書類もあり個々に目を通している。	○	定期的に学習会を実施していかなければならない。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾やコップなどハイター消毒している。また、床等も塩素系ハイターにより消毒を行っている。	○	目の行き届かない細かいところに配慮し、消毒・衛生管理を一層努力していく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に月間行事予定を張り出したりしている程度である。玄関前には花壇などを作っている。	○	玄関や玄関前の見えるところに入所者の作成した展示物や月間行事の様子など張り出していきたいと思っている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々最近レクリエーションの一環として季節感に合ったものを取り入れる程度である。	○	季節感のある空間作りに努力していく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内のソファーにて気のあった利用者同士で話をする程度である気のあった人同士・1人になれる空間は(建物上難題であるも)工夫している。	○	今以上努力をし共有空間を職員の会議などによって検討する場を設けるよう努力していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族とは相談をしていないが、本人の希望を聞いて行っている。	○	本人の希望だけでなく、家族の希望も聞き繁栄できるようにしていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	その日によって空調をつけるときやつけないときがあり、換気は定期的に行っている	○	空気や匂いのこもらないようこまめに換気したりするこまやかな配慮をしているが職員目線になっていることが多く入所者の目線で行っていかねばならない。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に手摺をつけたりして支援を行っている。	○	利用者個々の身体状態に応じた環境作りを心がけていく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	1人1人にあった家庭環境で暮らせるように個々にさせている。	○	個々の身体能力を引き出せるような環境作りを行ってきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダに天気の良い日に日光浴をしながら長椅子に座り利用者同士で会話をしたりする安息場所を提供している。	○	今後も利用者のニーズに応じていき、同様に行っていく予定。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日々の日常の中で家族的で落ち着いた雰囲気の中で元気に満ち溢れている。又、月間行事も利用者と職員がより良い関係を築きコミュニケーションを取っている。